

カルチュラル・スタディーズ学会

Association for Cultural Typhoon

第7期幹事会よりごあいさつ

代表幹事 田中東子

みなさん、こんにちは。2024年9月より2026年秋までカルチュラル・スタディーズ学会（ACT）の第7期の代表幹事を務めることになりました、田中東子と申します。

現在ではカルチュラル・スタディーズ学会の年次大会として定着しているカルチュラル・タイフーンですが、最初から学会だったのではなく、誕生した2003年には有志が集まり運営するお祭りのようなイベントでした。新自由主義経済による大学への侵襲に抗うため、国内だけでなく、東アジアや環太平洋の国や地域のカルチュラル・スタディーズの研究者や院生、アーティストやアクティビストが集まり、より自由で、より平等で、より公平な世界を目指す言葉や行動、表現活動やネットワークの形成に可能性を見出すために、2日の期間中に多くの人たちが集い、語り合いました。

それから10年余りが過ぎた2012年、

有志の集まりによって運営されていたカルチュラル・タイフーンは、より安定した運営基盤を求めて学術学会の体裁をとりながら続いていくという道を選択することになりました。学会化に伴い、新たな会則を作り、学会誌を定期的に発行し、会員を募るかたちでこの集まりは今日まで続いています。

日本のカルチュラル・スタディーズは今年で導入から30年が経ち、世代交代が進みつつあります。この間、学会メンバーも徐々に入れかわり、学会化以前のカルチュラル・タイフーンを知らないという方も増えています。そこで、私たち第7期の幹事会メンバーは、東アジアを中心とした新しい世代のネットワークを築きなおすために、2025年11月8日～9日に台湾・国立高雄大学にて「カルチュラル・タイフーン高雄（Cultural Typhoon Kaohsiung 2025）」を開催することにしました。今



回のテーマは「交叉颱風 Typhoons Entwined: Crosswinds, Currents, Converge!」です。

大会の詳細につきましては、以下のウェブサイトにてご案内しておりますので、ご確認いただけますと幸いです。

▼実行委員長の黄柏瀧さんの熱い大会マニフェストはこちらから読めます



▼大会CFPはこちらからどうぞ



私たちはこの大会を、カルチュラル・スタディーズにおける新世代の地域横断的な知的ネットワークの再構築、知と実践の裂け目に耳を傾けること、そして多様性と分断の問題を再考する絶好の機会にしたいと考えております。国際的なネットワークの再構築は第6期の幹事会が掲げていた目標でもあり、各国・各地域で排外主義や極右的な思想が広がる

現在、そうした潮流に対抗していくために、喫緊の課題になっていると思われます。

分断するのは実に容易く、連帯と協調を創り上げる道のは非常に困難で忍耐と粘り強さが必要とされます。けれども、私たちは、連帯と協調に向けた困難や忍耐、粘り強い取り組みの中でこそ、楽しさや喜びにたどり着けることを知っています。私たちはつねに、そのことを知っている人びとの集まりでありたいと、心から願っております。絶望にばかり直面する時代ではありますが、まずは残りの1年半、楽しく協働していきましょう！

2025年5月吉日

カルチュラル・スタディーズ学会
代表幹事 田中東子
他 第7期 幹事一同





2024 年 9 月 22 日 デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

カルチュラル・スタディーズ学会 2024 年度総会

第 3 号議案 (総会承認済) カルチュラル・タイフーン早稲田 2023 収支報告

カルチュラル・タイフーン2023(早稲田大学)収支報告

<収入の部>

項目		備考
報告登録料	306,000	42名
PJW出展料・書店出店料	10,000	
参加費	当日参加費※	866,628 チケット購入者308名(一般149名、学生159名)、託児サービス寄付33口含む)
	アーカイブ配信収入※	82,728 チケット購入者46名
	受付での現金による支払い	90,000 一般13名、学生19名
	小計	1,039,356
開催校準備費	0	
グッズ販売収入	76,300	
合計	1,431,656	

※ Peatix手数料等を差し引いた最終的な収入額

<支出の部>

項目		備考
託児サービス委託料(S-1)	115,361	お見積り時175,319-
会場費(S-2)	0	
オンライン配信費(S-3)	1 配信スタッフ雇用	70,000 1名
	2 配信補助スタッフ雇用	93,000 5名、77.5時間×1,200円
	3 配信用機材レンタル料	0
	4 配信用機材購入費	1,440
	5 Gather.Town企画費	63,849 Gather.Town使用料350ドル(52,549-)と資料スキャン費11,300-
小計	228,289	
謝金(S-4)	1 基調講演交渉謝金	20,000 スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ氏への登壇交渉エージェントに支出
	2 基調対話登壇謝金	60,000 陳光興氏への支出
	3 基調対話通訳謝金	15,000 3か国語対応の1名に支出
	4 シンポA登壇謝金	40,000 2名に20,000-支出
	5 シンポB登壇謝金	90,000 1名に50,000-、2名に20,000-支出
	6 学会企画登壇謝金	60,000 1名に40,000-、1名に20,000-支出
	7 翻訳謝金	25,000 シンポB要旨と原稿翻訳料
小計	310,000	
人件費(S-5)	1 会場スタッフ雇用費	115,800 18名、96.5時間×1,200円
	2 実行委員会事務局人件費	140,000 実行委員会専従2名に30,000-支出、事務局専従2名に40,000-支出
小計	255,800	
宣伝費(S-6)	1 プログラム作成委託料	110,000
	2 プログラム作成補助雇用	30,000 3名に10,000-支出
	3 全体デザイン料	66,000
	4 ポスター等印刷費	150,306 株式会社トライ・エックスに発注
小計	356,306	
事務費(S-7)	1 事務用品購入費	2,776
	2 物品輸送費	14,862 搬入搬出のためのガソリン代、高速料金
	3 資料印刷費	0
小計	17,638	
グッズ関連費(S-8)	1 グッズ作成費	122,484 Tシャツ、トートバッグ、クリアファイル、ステッカー制作
	2 グッズ郵送費	740 レターパック370×2件
小計	123,224	
銀行振込手数料等学会負担分(S-9)	2,860	
雑損失(S-10)	0	
合計	1,409,478	

開催収支残金	22,178	
--------	--------	--



第4号議案（総会承認済） 2023年度収支報告

カルチュラル・スタディーズ学会 2023年度収支報告

2023年4月1日～2024年3月31日

<収入の部>

項目		2023年度	備考
繰越金		2,696,514	
会費	年会費	個人会員	1,968,380 複数年度の支払者含む
		法人会員	0
		賛助会員	0
		その他	
	小計	1,968,380	会費納入件数269件(会費納入率76%)
事業収入	年報販売収入	2,370	北海道大学図書館(年報第2号)
	その他	0	
	小計	2,370	
その他	CT関連費	22,178	2023早稲田カルタイ収支残金
	短期借入金	0	
	小計	22,178	
利子		23	
合計		4,689,465	

<支出の部>

項目		2023年度	備考
事業費	研究会開催費	33,200	明大サポート×3回、8月8日研究会講師謝金10,000-×2名
	年報バックナンバー発行関連費	111,667	創文企画(郵送代行費、J-STAGE公開作業費)
	年報第11号発行関連費	842,600	創文企画(編集・印刷費)
	CT開催準備費	0	
	若手研究会活動助成費	90,000	「アート/ケア/文化政策」研究会(申請者 齋藤梨津子)50,000-、「歩者の科学」研究会(申請者 高原太一)20,000-、「バスケットボール・スタディーズ研究会」(申請者 松本博也)20,000-
	小計	1,077,467	
管理費	事務局運営費	420,000	事務局手当30,000×12か月+30,000×2か月(引継期間)
	会員管理システム委託費	330,000	(株)アトラスSMOOSY利用料(2023年度)
	ACTニューズレター作成費	10,000	研究会記録執筆原稿料
	学会HPリニューアル工事費	297,000	カテル有限会社
	通信費	6,006	さくらインターネット990-、GMOペパボ5,016-
	雑費	2,640	ゆうちょ振込手数料
	小計	1,065,646	
その他	選挙管理費	0	次回選挙は2024年度実施
	その他		
	小計	0	
合計		2,143,113	

次年度繰越金	2,546,352	
--------	-----------	--



第 5 号議案（総会承認済） 2024 年度予算案

カルチュラル・スタディーズ学会 2024年度予算案

2024年4月1日～2025年3月31日

<収入の部>

項目		2024年度	備考
繰越金		2,546,352	
会費	年会費	個人会員A	1,060,000 106名を想定して算出
		個人会員B	138,000 23名を想定して算出
		個人会員C	444,000 111名を想定して算出
		法人会員	0
		賛助会員	0
	小計	1,642,000	350名の会員の68%が納入したと仮定して算出
事業収入	年報販売収入	2,000	
	その他	0	
	小計	2,000	
その他	CT関連費	0	神戸カルタイ2024収支の結果による
	小計	0	
合計		4,190,352	

<支出の部>

項目		2024年度	備考
事業費	研究会開催費	50,000	会場使用料、非会員の講師謝金
	若手研究会企画運営補助	60,000	公募による若手研究会の企画運営への補助
	年報発行費	1,000,000	編集・印刷費、郵送代行費、J-STAGE搭載代行費
	CT開催準備費	0	神戸カルタイでは開催校準備金を設定せず
	小計	1,110,000	
管理費	事務局運営費	500,000	事務局手当30,000×12か月、補助雇用費、事務局Slack維持費
	会員管理システム委託費	330,000	(株)アトラスSMOOSY利用料(2024年4月～2025年3月)
	ACTニュースレター作成費	20,000	研究会開催記録執筆謝金
	会議費	0	
	通信費	10,000	サーバー使用料、ドメイン使用料
	雑費	10,000	PayPal・ゆうちょ振込手数料
小計	870,000		
その他	選挙管理経費	30,000	
	その他	0	
小計	30,000		
合計		2,010,000	

次年度繰越金	2,180,352
--------	-----------



カルチュラル・スタディーズ学会

2024年9月22日総会

□第7期幹事監査選挙結果

幹事：稲垣健志、川端浩平、竹田恵子、田中東子、村田麻里子

監査：高原幸子、長尾洋子

総会後の第7期幹事招集会議議事録

□推薦幹事の選出

荒井悠介(明星大学)、大石茜(松山大学)、黄柏瀧(高雄大学)、梁永山聡子(成城大学)

□各幹事の担当決定

・事務局 大石

・編集担当 稲垣(委員長)・竹田、荒井(副委員長)

・大会担当 黄(2025年度)、梁永山(2026年度)

・研究企画/海外連携担当 村田(2025年度)、川端(2026年度)

・ジェンダー平等・DEI担当 竹田

・代表兼広報担当 田中

□その他の審議事項

・第1回の幹事会にてセクションごとに委員数名を指名し、委員会を中心に活動を行う。

・2025年度のカルチュラル・タイフーンは高雄大学で開催し、2026年度は東京で開催する。英語のセッションと日本語のセッションが分離してしまっている点を検討するとともに、国際的な場として再構築する必要が話し合われた。

・ゆるやかな世代のバトンタッチ、アジア連携を今期幹事会の目標とすることを確認した。

第7期第1回幹事会議事録

2024年10月28日(月)10時~12時@Zoom

出席者：田中、荒井、稲垣、大石、黄、川端、竹田、梁永山、村田

□年報最新号の公募について

・前期の編集委員から引継ぎを行なうとともに、投稿論文の募集を開始したことが報告された。査読委員の選任を進めていることも報告された。

□各委員会委員の選任について

・会員全体から、ジェンダー、年齢、国籍等、多様性に配慮しながら、委員を選任することを確認した。

・業務が複雑なものや、担当者の継続が運営上必要なものに関しては、前任者が継続して担当する。井上(弘)前幹事が事務局担当委員として残留する。広報委員会では竹崎委員、山本(恭)委員が委員を継続する。

□研究企画委員会(海外連携含む)

・担当幹事2名で担当しながら、各年度の責任者を1名ずつ設ける形を検討する。研究企画委員は11月中をめどに選任する予定であることが報告された。

□大会委員会

・高雄カルタイに向けて研究会を行うことを検討する。高雄カルタイに向けた大会委員と、2年並走できる大会委員を選出する予定であることが報告された

・開催校実行委員については、会員に加えて、大会テーマに関係する非会員からも広く選出することを検討する。

□編集委員会

・編集委員会で企画を立て、企画に必要な委員を、編集委員会担当幹事で検討のうえで選出する。



・査読委員に関しては昨年度の委員に打診を行う。引継ぎが困難な場合、その委員の専門部分ごとに、多様性に配慮しながら新たな委員を編集委員会内で審議を行い選出する。

□ダイバーシティ特別委員会（仮称）

・特別委員会の設置と、委員を複数名選出する予定であることが報告された。

□事務局

・今年度中に、前年度までの会計担当者より引継ぎを行う。会計担当は今後選出する予定であることが報告された。

□カルタイ高雄 2025 について

・開催にあたってはオンライン利用（ハイブリッド開催、単一現場）も検討する。

・2024 年 11 月末を目途に第 1 回実行委員会を行う予定であることが報告された。

□2026 年度カルタイについて

・朝鮮半島と新大久保のどちらを中心に置くのかを今後検討する。

・2026 年度に向けた準備は 2025 年の夏から開始する予定であることが報告された。

第 7 期第 2 回幹事会議事録

2025 年 1 月 6 日（月）10 時～11 時半@Zoom

出席者：荒井、稲垣、大石、黄、川端、竹田、田中、梁永山、村田

□カルチュラル・タイフーン高雄について

・開催候補日を、11 月 8 日～9 日とする方向で進めることに決した。

・会場は高雄大学人文社会科学学院で開催することが確認された。

・大会委員長よりシンポジウム企画について提案がなされた。

・大会のテーマについて、方向性が確認された。引き続きアイデアを出し合うこと

となった。Calls For Papers (CFP) については 3 月に公募開始できるよう準備を進めることが承認された。

・大会に向けた今後のスケジュールや運営方法、資金面の課題等について意見交換がなされた。

□年報最新号について

・投稿論文の本数及び査読の経過について報告され、従来どおり 6 月頃に刊行予定であることが確認された。

・査読者の確保に課題があり、選任の基準や非会員への依頼の可能性について引き続き検討することとなった。

・発行部数は増やす方向で検討することとなった。

□新規入会者・ニューズレター作成

・新入会員が承認された。

・ニューズレターの発行が承認され、編集を進めることが確認された。

□特別委員会について

・特別委員会の名称はダイバーシティ推進委員会とすることが承認された。

・推進委員会の委員が検討され、3 名が承認された。

第 7 期第 3 回会議幹事会議事録

2025 年 3 月 31 日 10 時～12 時@Zoom

出席者：荒井、稲垣、大石、黄、川端、竹田、田中、永山、村田

□大会委員会

カルチュラル・タイフーン高雄 2025 の日程等について再確認をした。日程は 11 月 8 日

（土）、9 日（日）、会場は国立高雄大学人文社会科学学院とし、7 日（金）に前夜祭、10 日

（月）に高雄ツアーを企画する。

・Calls For Papers および公募内容／公募ス



ケジュールについては、4月中旬に公募を開始する。文面は開催校実行委員長が準備し、細かなスケジュールや支払い方法等については、学会本体の幹事で検討することを確認した。

・5月28日、29日、30日に幹事数名で高雄の現地訪問を予定する。その際、高雄大学関係者との交流会を予定し、あわせて会場の下見を行なう。

□編集委員会

・年報第13号の進捗状況について報告がなされた。第2次審査を進めている。投稿数が増えており、特集企画を組むことが難しくなっていることが報告された。

・今号では、座談会の企画、展覧会評の掲載を検討中であることが報告された。

・査読できる会員が少なく課題はあるが、原則として従来の基準で依頼することが確認された。非会員の査読者には謝礼を支払う方向で検討することが確認された。

・査読者の選定にあたり名簿の情報更新が必要であり、例年通り4月に情報更新の依頼の会員向けに発信する。

・査読を依頼する前に、編集委員で文字数や体裁を確認することとし、応募の文書にも、そのことを記載する。

□事務局

・1月6日以降の新入会が承認された。

・ニューズレターについては、4月の発行を目指して準備中であることが報告された。

□ダイバーシティ推進委員会

・現在までに2回のオンラインミーティングを開催したことが報告された。

・ダイバーシティ推進宣言／ハラスメント防止ガイドラインを両方策定する方針であることが報告された。

・2025年度の総会で叩き台を示し、意見やコメントを募集することを確認した。

<出版情報>

2024年度下半期、ご執筆者あるいは出版社様から学会事務局にご恵贈いただきました著作は下記のとおりです。ここにご紹介申し上げます。

・輪島裕介、永富真梨編『入門ポピュラー音楽の文化史——〈戦後日本〉を読み直す』(ミネルヴァ書房、2024年)。

・ジョージ・リッツア著、正岡寛司訳『21世紀新版 マクドナルド化した社会——果てしなき合理化のゆくえ』(早稲田大学出版部、2024年)。

・伊藤守編『東京オリンピックはどう観られたか——マスメディアの報道とソーシャルメディアの声』(ミネルヴァ書房、2024年)。



News Letter

Association for Cultural Typhoon

2025年5月14日発行 第4号
〒790-8578 愛媛県松山市文京町4番地2
松山大学 人文学部社会学科 大石茜研究室気付
association.ct.secretary@gmail.com
<http://cultural-typhoon.com/act/jp/>